



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

可動役物装置を備えた遊技機において、  
前記可動役物装置は、  
第1装飾部を備えると共に、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能に支持され  
て第1回動位置と第2回動位置の間を移動可能な回動部材と、  
第2装飾部を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退  
可能であって前記第1回動位置側の第1進退位置と前記第2回動位置側の第2進退位置と  
の間を移動可能な進退部材と、を有し、  
前記回動部材に備えた前記第1装飾部は、前記進退部材が前記第1進退位置に配置され  
たときに前記進退部材の前記第2装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第2進退位  
置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機。

**【請求項 2】**

前記第2装飾部は、前記第2進退位置側を中心として扇状に並べられた複数の装飾部構  
成体からなり、

前記複数の装飾部構成体は、前記進退部材が前記第1進退位置から前記第2進退位置へ  
向かうにつれて前記第1進退位置側が互いに近づくように寄せられる、請求項1に記載の  
遊技機。

**【請求項 3】**

前記可動役物装置は、  
前記進退部材に搭載されて前記進退部材の進退方向に沿って移動可能に支持され、前記  
進退部材に重ねられる退避位置と前記進退部材から前記第2進退位置側に突出する突出位  
置との間を移動可能な突出部材をさらに有し、

前記突出部材は、前記進退部材の前記第1進退位置から前記第2進退位置への移動に伴  
って前記退避位置から前記突出位置に移動する、請求項1又は2に記載の遊技機。

**【請求項 4】**

前記突出部材は、前記退避位置に配置されたときに前記進退部材に前側を覆われる、請  
求項3に記載の遊技機。

**【請求項 5】**

前記突出部材は、前記進退部材に回転自在に支持され、その回転中心から離れた部位が  
前記進退部材の移動に伴って前記回動部材に摺接することで回転するよう構成された、  
請求項3又は4に記載の遊技機。

**【請求項 6】**

前記突出位置は、前記進退部材がその移動ストロークの途中位置より前記第2進退位置  
側を移動するときに、前記進退部材と一体になって前記回動部材の回動方向に移動する、  
請求項5に記載の遊技機。

**【請求項 7】**

前記回動部材の前記回動軸は、前記回動部材において、前記第2回動位置側であって前  
記回動部材の回動方向と直交する方向の片側に寄せて配置されている、請求項1乃至6の  
うち何れか1の請求項に記載の遊技機。

**【請求項 8】**

前記回動部材及び前記進退部材には、前記回動部材の回動方向と直交する方向で対をな  
す1対の装飾部が設けられ、

前記1対の装飾部のうち前記回動部材の前記回動軸から遠い側の装飾部は、該回動軸か  
ら近い側の装飾部より大きく形成されている、請求項7に記載の遊技機。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、可動役物装置を備えた遊技機に関する。

**【背景技術】**

10

20

30

40

50

**【0002】**

特許文献1の遊技機では、可動役物装置が、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能な回動部材を備えている。

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

【特許文献1】特開2008-104637号(段落[0131]～[0132]、図11、図15)

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

特許文献1の遊技機では、可動役物装置の動作が単純で興趣に欠けるという問題があった。

**【0005】**

本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる遊技機の提供を目的とする。

**【課題を解決するための手段】****【0006】**

第1の手段は、可動役物装置を備えた遊技機において、前記可動役物装置は、第1装飾部を備えると共に、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能に支持されて第1回動位置と第2回動位置の間を移動可能な回動部材と、第2装飾部を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第1回動位置側の第1進退位置と前記第2回動位置側の第2進退位置との間を移動可能な進退部材と、を有し、前記回動部材に備えた前記第1装飾部は、前記進退部材が前記第1進退位置に配置されたときに前記進退部材の前記第2装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第2進退位置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機である。

20

**【発明の効果】****【0007】**

上記発明によれば、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。

30

**【図面の簡単な説明】****【0008】****【図1】本発明の一実施形態に係る遊技機の正面図****【図2】遊技盤の正面図****【図3】機構枠の正面図****【図4】第1可動役物装置の動作を示す正面図****【図5】回動ベースの動作を示す正面図****【図6】進退部材の動作を示す側断面図****【図7】直動駆動機構の動作を示す図****【図8】装飾部材の動作を示す正面図****【図9】突出部材の動作を示す正断面図**

40

**【図10】第2可動役物装置の動作を示す正面図****【図11】(A)第1可動部の側断面図、(B)第2可動部の側断面図****【図12】第1駆動機構の正面図****【図13】第1可動体の動作を示す正面図****【図14】第2駆動機構の正面図****【図15】第2可動体の動作を示す正面図****【図16】複合役物演出を説明するための正面図****【図17】本発明の変形例に係る直動駆動機構の動作を示す図****【発明を実施するための形態】****【0009】**

50

図1に示されるように、本実施形態の遊技機10は、前面枠10Zを前面に備え、その前面枠10Zに形成されたガラス窓10Wを通して、図2に示す遊技盤11の前面に形成された遊技領域R1が視認可能になっている。なお、以下の説明において、特記しない限り「右」とび「左」とは、遊技機10を前方から見た場合の「右」とび「左」を指すものとする。

#### 【0010】

前面枠10Zのうちガラス窓10Wより下方には、上皿26と下皿27が上下2段にして設けられ、下皿27の右側には、発射ハンドル28が備えられている。そして、発射ハンドル28が回動操作されると、上皿26に収容された遊技球が遊技領域R1(図2)に向けて弾き出される。

10

#### 【0011】

図2に示されるように、遊技領域R1は、遊技盤11の前面から突出したガイドレール12に囲まれている。遊技盤11のうち遊技領域R1の中央には、表示開口11Hが貫通形成され、この表示開口11Hを通して、表示装置13の表示画面13Gが前方に臨んでいる。表示画面13Gでは、遊技に関する種々の演出が行われる。

#### 【0012】

表示開口11Hの開口縁には、表示画面13Gを囲むように表示装飾枠23が取り付けられている。表示装飾枠23は、遊技盤11の前面側から表示開口11Hに嵌め込まれて遊技盤11の前面から突出し、遊技領域R1を流下する遊技球が表示装飾枠23の内側に進入することを規制している。

20

#### 【0013】

遊技領域R1のうち表示装飾枠23より下側部分の横方向の中央部には、第1始動入賞口14AKが設けられている。第1始動入賞口14AKは、遊技球が1つずつ入球可能な大きさの開口を上部に有するポケット構造をなしている。

#### 【0014】

第1始動入賞口14AKの下方には、第1大入賞装置15Aが設けられている。第1大入賞装置15Aは、右側に開放した第1大入賞口15AKと、第2大入賞口15AKの右側に配置された第1可変部材15ATと、を備えている。第1可変部材15ATは、左下り傾斜し、遊技盤11の前面から突出した第1突出位置と、該第1突出位置より突出が抑えられた第1退避位置との間をスライド可能に構成されている。そして、第1可変部材15ATが第1突出位置に配置されたときに、第1可変部材15ATを案内にして遊技球が第1大入賞口15AKに入球可能となり、第1可変部材15ATが第1退避位置に配置されたときに、遊技球が第1大入賞口15AKに入球困難となる。

30

#### 【0015】

遊技領域R1のうち表示装飾枠23の右側には、始動ゲート18が設けられている。始動ゲート18は、遊技領域R1を流下する遊技球が潜って通過可能な門形状に形成されている。始動ゲート18を遊技球が通過すると、普通図柄当否判定が行われる。

#### 【0016】

始動ゲート18の下方には、第2始動入賞装置14Bが設けられている。第2始動入賞装置14Bは、左側に開放した第2始動入賞口14BKと、第2始動入賞口14BKの左側で右下がりに傾斜した始動可変部材14BTと、を備えている。始動可変部材14BTは、遊技盤11の前面から突出した始動突出位置と該始動突出位置より突出が抑えられた始動退避位置との間をスライド可能に構成されていて、通常は、始動退避位置に配置され、上述した普通図柄当否判定の結果が当りになると、所定の期間だけ始動突出位置に配置される。そして、始動可変部材14BTが始動突出位置に配置されたときに、始動可変部材14BTを案内にして遊技球が第2始動入賞口14BKに入球可能となり、始動可変部材14BTが始動退避位置に配置されたときに、遊技球が始動入賞口14BKに入球困難となる。

40

#### 【0017】

第2始動入賞装置14Bの下方には、第2大入賞装置15Bが設けられている。第2大

50

入賞装置 15B は、上側に開放した第2大入賞口 15BK と、第2大入賞口 15BK を開閉する第2可変部材 15BT と、を備えている。第2可変部材 15BT は、遊技盤 11 の前面から突出した第2突出位置と、該第2突出位置より突出が抑えられた第2退避位置との間をスライド可能に構成されている。そして、第2可変部材 15BT が第2突出位置に配置されたときに、第2大入賞口 15BK が閉塞されて遊技球が第2大入賞口 15BK に入球困難となり、第2可変部材 15BT が第2退避位置に配置されたときに、第2大入賞口 15BK が開放されて遊技球が第2大入賞口 15BK に入球可能となる。

#### 【0018】

第1始動入賞口 14AK 又は第2始動入賞口 14BK に遊技球が入球すると、所定数の遊技球が賞球として上皿 26 (図1参照) に払い出されると共に、特別図柄当否判定が行われる。

10

#### 【0019】

特別図柄当否判定の結果が当りになると、大当たり遊技が実行され、第1大入賞口 15AK 又は第2大入賞口 15BK に遊技球が入球可能となる。第1大入賞口 15AK 又は第2大入賞口 15BK に遊技球が入球すると、所定数の遊技球が賞球として払い出される。

#### 【0020】

遊技領域 R1 には、上述した入賞口 14AK, 14BK, 15AK, 15BK のほかに、上方又は側方に開放して遊技球が常時入球可能な一般入賞口 20 が複数設けられている。また、遊技領域 R1 の下端部、具体的には、第1可変部材 15AT の下方には、何れの入賞口にも入球しなかった遊技球を遊技領域 R1 の外側に排出するためのアウトロ 16 が設けられている。さらに、遊技領域 R1 には、遊技球の流下方向をランダムに変更するための障害釘 K が多数植設されている。

20

#### 【0021】

本実施形態の遊技機 10 では、遊技盤 11 の後側に、図3に示される機構枠 17 を備えている。機構枠 17 には、第1可動役物装置 100 と第2可動役物装置 200 を含む種々の装置が組み付けられている。

#### 【0022】

##### [第1可動役物装置 100]

図3及び図4に示されるように、第1可動役物装置 100 は、機構枠 17 に固定された固定ベース 101 と、固定ベース 101 に対して移動可能な移動演出部 110 と、を有する。図5 (B) に示されるように、固定ベース 101 は、横辺部 101A と、横辺部 101A の両側部から下側へ延びた1対の縦辺部 101B, 101B と、からなる。横辺部 101A は、機構枠 17 の上辺部 17J に前側から重ねられ、1対の縦辺部 101B, 101B は、機構枠 17 の側辺部 17S, 17S に重ねられる。なお、左側の縦辺部 101B は、右側の縦辺部 101B よりも長くなっている。

30

#### 【0023】

図4 (A) 及び図4 (B) に示されるように、移動演出部 110 は、固定ベース 101 に対して前後方向に沿った軸を中心に回動可能な回動ベース 111 を備えている。図5に示されるように、回動ベース 111 は、回動横辺部 111A と、回動横辺部 111A の左右の両端部から下側へ延びた1対の回動縦辺部 111B, 111B と、を備えた略門形状に形成されている。なお、1対の回動縦辺部 111B, 111B は共に、固定ベース 101 の右側の縦辺部 101B と略同じ長さになっている。

40

#### 【0024】

図5 (A) 及び図5 (B) に示されるように、回動ベース 111 は、固定ベース 101 の右側の縦辺部 101B の下端部に回動可能に支持され、通常は、第1回動位置 (図5 (A) 参照) に配置されている。回動ベース 111 が第1回動位置に配置された状態では、回動横辺部 111A が固定ベース 101 の横辺部 101A に前側から重ねられ、1対の回動縦辺部 111B, 111B が固定ベース 101 の1対の縦辺部 101B, 101B に前側から重ねられる。所定の回動条件が成立すると、回動ベース 111 は、左側の回動縦辺部 111B が下方へ移動するように反時計方向に回転して、第2回動位置 (図5 (B) 参

50

照)に配置される。このとき、回動ベース111は、回動横辺部111Aが左下がりに傾斜するように配置され、表示画面13G(図2参照)の中央部を前側から覆う。ここで、回動ベース111の回動軸部111Jは、回動ベース111の横方向一方側の下端部(具体的には、回動縦辺部111Bの下端部)に配置されるので、第2回動位置へと向かう回動ベース111を傾くように見せることが可能となる。

#### 【0025】

なお、固定ベース101の左側の縦辺部101Bには、回動ベース111の回転軸部111Jを中心とした円弧状のガイド孔101Gが形成されていて、このガイド孔101Gに、回動横辺部111Aの左側部から後側(図5では、紙面奥側)に突出するガイド突部111Gが係合することで、固定ベース101に対する回動ベース111の回動の安定化が図られている。10

#### 【0026】

回動ベース111は、固定ベース101に搭載された回動駆動機構102により駆動される。回動駆動機構102は、駆動源103と、駆動源103により駆動される回動レバー104と、を備えている。回動レバー104は、固定ベース101の横辺部101Aの左端寄り部分に回動可能に支持され、その回動中心から右側へ張り出している。回動レバー104の先端部には、回動レバー104の張り出し方向に延びた先端長孔105が形成されていて、この先端長孔105に、回動ベース111の横辺部111Aから後側に突出した係合突部105Tが係合している。また、回動レバー104の中間部には、回動レバー104の張り出し方向に延びた中間長孔106が形成されている。中間長孔106には、駆動源103により駆動される中継ギア103Gに形成された回転突部106Tが係合している。そして、中継ギア103Gが回転すると、回動レバー104が回動し、回動ベース111が固定ベース101に対して回動軸部111Jを中心に回動する。20

#### 【0027】

図6に示されるように、回動ベース111は、回動ベース本体112と、回動ベース112に前側から重ねて固定された装飾プレート113と、を備える。具体的には、回動ベース本体112は、前壁112Aと後壁112Bの上端部同士が天井壁112Tで連絡されて、下側に開放した断面コの字状をなし、前壁112Aの前面に装飾プレート113が固定されている。なお、前壁112Aの天井壁112Tからの突出量は後壁112Bよりも小さくなっている。30

#### 【0028】

図4(B)から図4(C)の変化に示されるように、移動演出部110は、回動ベース111に搭載されて回動ベース111の回動方向に移動可能な進退部材121を備えている。図6に示されるように、進退部材121は、前後方向で対向したスライド部材122と装飾部材123の下端部同士が連結部材121Aによって連結されてなる。スライド部材122は、前後方向で回動ベース111の後壁112Bと装飾プレート113の間に配置され、装飾部材123は、回動ベース111の装飾プレート113より前側に配置されている。

#### 【0029】

スライド部材122は、後壁112Bに対して天井壁112Tと略垂直な方向に直動可能となっている。具体的には、図7に示されるように、後壁112Bには、天井壁112Tに対して略垂直な方向に延在するガイド孔112Gが形成されていて、このガイド孔112Gに、スライド部材122から後側に突出したガイド突部122Gが係合することで、スライド部材122が回動ベース112に直動可能に支持されている。40

#### 【0030】

進退部材121は、通常は、図6(A)及び図7(A)に示される第1進退位置に配置される。このとき、スライド部材122は、回動ベース111の装飾プレート113の後側に配置され、装飾部材123は、装飾プレート113を前側から覆う。所定のスライド条件が成立すると、スライド部材122がガイド孔112Gに沿って下側へ移動し、進退部材121は、図6(B)及び図7(B)に示される第2進退位置に配置される。このと50

き、スライド部材 122 及び装飾部材 123 は、装飾プレート 113 から下側に突出し、装飾プレート 113 が露出する。そして、装飾プレート 113 と装飾部材 123 の装飾が回動ベース 111 の回動方向に並べられる（図 4（C）参照）。

#### 【0031】

図 7 に示されるように、スライド部材 122 は、回動ベース 111 に備えた直動駆動機構 115 によって駆動される。直動駆動機構 115 は、駆動源 116 と、駆動源 116 により駆動される回動レバー 117 と、を備えている。回動レバー 117 は、回動ベース 111 の後壁 112B の右側部に回動可能に支持され、その回動中心から左側へ張り出している（回動ベース 111 を後側から見た図 7 では、左右が反対に示されている。）。なお、詳細には、図 6 に示されるように、後壁 112B は、中空構造に形成されていて、回動レバー 117 は、後壁 112B の内部に収容されている。10

#### 【0032】

図 7 に示されるように、回動レバー 117 の先端部は、ガイド孔 112G と重なるように配置され、回動レバー 117 の先端部には、回動レバー 117 の張り出し方向に延びた先端長孔 118 が形成されている。そして、この先端長孔 118 に、上述したスライド部材 122 のガイド突部 122G が係合している。また、回動レバー 117 の中間部には、回動レバー 117 の張り出し方向に延びた中間長孔 119 が形成されている。中間長孔 119 には、駆動源 116 により駆動される中継ギア 116G に突設された回転突部 119T が係合している。中継ギア 116G が回転すると、回動レバー 117 が回動し、スライド部材 122 がガイド孔 112G に沿って直動する。20

#### 【0033】

図 8 に示されるように、装飾部材 123 は、左側装飾構成体 123L と中央側装飾構成体 123C と右側装飾構成体 123R の 3 つの装飾構成体を横並びにして備えている。上述した連結部材 121A（図 6 参照）は、中央側装飾構成体 123C とスライド部材 122 を連結し、中央側装飾構成体 123C は、スライド部材 122 と一緒に移動する。

#### 【0034】

左側装飾構成体 123L と右側装飾構成体 123R は、中央側装飾構成体 123C に回転自在に支持されている。具体的には、中央側装飾構成体 123C は、下側が幅狭となる逆台形状に形成されていて、左側装飾構成体 123L は、中央側装飾構成体 123C の下端部の左側部に支持され、右側装飾構成体 123R は、中央側装飾構成体 123C の下端部の右側部に支持されている。左側装飾構成体 123L は、その回転軸部 123LJ から左側へと延びていて、右側装飾構成体 123R は、その回転軸部 123RJ から右側へと延びている。なお、左側装飾構成体 123L 及び右側装飾構成体 123R は、回転軸部 123LJ, 123RJ から離れるに従って幅広となる扇形状に形成されている。30

#### 【0035】

左側装飾構成体 123L 及び右側装飾構成体 123R の回転軸部 123LJ, 123RJ から離れた側の端部は、回動ベース 111 に支持されている。具体的には、回動ベース 111 の両側部（詳細には、回動横辺部 111A の両側部）には、1 対の係合孔 124, 124 が形成されている。左側の係合孔 124 には、左側装飾構成体 123L に突設された係合突部 123LT が係合している。右側の係合孔 124 には、右側装飾構成体 123R に突設された係合突部 123RT が係合している。各係合孔 124 は、回動横辺部 111A の中央側へ下るように傾斜した傾斜部 124A と、傾斜部 124A の下端部から図 7 で示したガイド孔 112G と平行に延びる直線部 124B と、からなる。40

#### 【0036】

図 8（A）から図 8（B）への変化に示されるように、進退部材 121 が第 1 進退位置から第 2 進退位置側へ移動すると、左側装飾構成体 123L の係合突部 123LT が左側の係合孔 124 における傾斜部 124A の内面によって右側に押され、左側装飾構成体 123L が回転軸部 123LJ を中心にして時計方向に回転する。また、右側装飾構成体 123R の係合突部 123RT が右側の係合孔 124 における傾斜部 124A の内面によって左側に押され、右側装飾構成体 123R が回転軸部 123RJ を中心にして反時計方向

に回転する。その結果、左側装飾構成体 123L の回動軸部 123LJ から離れた部分と右側装飾構成体 123R の回動軸部 123RJ から離れた部分が中央側装飾構成体 123C 側に寄せられる。このように、本実施形態では、進退部材 121 が第 2 進退位置へ向かうにつれて装飾部材 123 が窄まるように動作する。これにより、進退部材 121 の動作に躍動感を持たせることが可能となる。

#### 【0037】

図 8 (B) から図 8 (C) への変化に示されるように、進退部材 121 が更に第 2 進退位置側へ移動すると、左側装飾構成体 123L の係合突部 123LT と右側装飾構成体 123R の係合突部 123RT が係合孔 124 の直線部 124B に沿って移動し、左側装飾構成体 123L、中央側装飾構成体 123C 及び右側装飾構成体 123R が一体となって第 2 進退位置側に直動する。なお、進退部材 121 が第 2 進退位置から第 1 進退位置へ移動するときには、装飾部材 123 の各装飾構成体 123L, 123C, 123R は、図 8 (C) 図 8 (B) 図 8 (A) の変化に示されるように、上述とは逆の動きをする。

10

#### 【0038】

図 9 に示されるように、進退部材 121 には、突出部材 130 が搭載されている。突出部材 130 は、進退部材 121 に重ねられる退避位置（図 9 (A) 参照）と、進退部材 121 に対して第 2 進退位置側に突出する突出位置（図 9 (B) 及び図 9 (C) 参照）と、の間を移動可能に構成されている。詳細には、突出部材 130 は、図 6 に示されるように、進退部材 121 のスライド部材 122 と装飾部材 123 の間に配置され、退避位置に配置されたときに、装飾部材 123 の後側に隠れ（図 6 (A) 参照）、突出位置に配置されたときに、装飾部材 123 から下側に突出する（図 6 (B) 参照）。

20

#### 【0039】

本実施形態では、突出部材 130 が進退部材 121 の両側部に対をなして備えられている。左側の突出部材 130 は、進退部材 121 のスライド部材 122 の左下隅部に回転自在に支持され、右側の突出部材 130 は、スライド部材 122 の右下隅部に回転自在に支持されている。ここで、左側と右側の突出部材 130, 130 を左側突出部材 130L、右側突出部材 130R と称して区別すると、左側突出部材 130L は、その回転軸部 130LJ から左上側へ扇形状に張り出した基幹部位 130LA と、該基幹部位 130LA の先端部から右側に翼状に張り出した先端張出部位 130LB と、で構成されている。また、右側突出部材 130R は、その回転軸部 130RJ から右上側へ扇形状に張り出した基幹部位 130RA と、該基幹部位 130RA から左側に翼状に張り出した先端張出部位 130RB と、で構成されている。

30

#### 【0040】

スライド部材 122 の左右中央寄り部分には、左側突出部材 130L の回転軸部 130LJ を中心とした円弧状の左側ガイド孔 131L と、右側突出部材 130R の回転軸部 130RJ を中心とした円弧状の右側ガイド孔 131R と、が形成されている。そして、左側ガイド孔 131L に、左側突出部材 130L の先端張出部位 130LB から後側に突出した左側ガイド突部 132L が係合することで、左側突出部材 130L の回転の安定化が図られ、右側ガイド孔 131R に、右側突出部材 130R の先端張出部位 130RB から後側に突出した右側ガイド突部 132R が係合することで、右側突出部材 130R の回転の安定化が図られている。

40

#### 【0041】

左側突出部材 130L と右側突出部材 130R の基幹部位 130LA, 130RA は、回動ベース 111 の両側部に支持されている。具体的には、回動ベース 111 の両側部（詳細には、1 対の回動縦辺部 111B, 111B の両側部）には、1 対の係合孔 134, 134 が形成されていて、左側の係合孔 134 に左側突出部材 130L の基幹部位 130LA に突設された係合突部 135 が係合し、右側の係合孔 134 に右側突出部材 130R の基幹部位 130RA に突設された係合突部 135 が係合している。1 対の係合孔 134, 134 は、回動ベース 111 の左右中央側へ下るように傾斜した傾斜部 134A と、傾斜部 134A の下端部から図 7 で示したガイド孔 112G と平行に延びる直線部 134B

50

と、からなる。

**【0042】**

図9(A)から図9(B)への変化に示されるように、進退部材121が第1進退位置から第2進退位置側へ移動すると、左側突出部材130Lの係合突部135が左側の係合孔134の傾斜部134Aにより右側に押されて、左側突出部材130Lが回動軸部130LJを中心にして時計方向に回転する。このとき、右側突出部材130Rの係合突部135が右側の係合孔134の傾斜部134Aにより左側に押されて、右側突出部材130Rが回動軸部130RJを中心にして反時計方向に回転する。その結果、左側突出部材130L及び右側突出部材130Lが、退避位置から突出位置へと移動し、進退部材121に対して第2進退位置側に突出する。このように、本実施形態では、進退部材121の第2進退位置側への移動に伴って突出部材130が進退部材121から突出する。これにより、進退部材121の動作に一層の躍動感を持たせることが可能となる。

**【0043】**

進退部材121が図9(B)に示される位置から更に第2進退位置側へ移動すると、左側突出部材130Lと右側突出部材130Rの係合突部135は係合孔134の直線部134Bに沿って移動し、左側突出部材130L及び右側突出部材130Rは、進退部材121と一緒に第2進退位置側に直動する。なお、進退部材121が第2進退位置から第1進退位置へ移動するときには、左側突出部材130L及び右側突出部材130Rは、図9(C) 図9(B) 図9(A)の変化に示されるように、上述とは逆の動きをする。

**【0044】**

本実施形態の第1可動役物装置100では、進退部材121は、回動ベース111が停止しているときに駆動されてもよいし、図4(B)から図4(C)への変化に示されるように、回動ベース111が回動しているときに駆動されてもよい。後者の場合、回動ベース111が第2回動位置へ向かうときに、進退部材121が第1進退位置から第2進退位置へと駆動され、回動ベース111が第1回動位置へ向かうときに、進退部材121が第2進退位置から第1進退位置へと駆動されることが好ましい。このように進退部材121が駆動されると、回動ベース111の回動する方向に進退部材121が移動することになり、第1可動役物装置100の動作に躍動感を持たせることが可能となると共に、回動ベース111と一緒に進退部材121が回動ベース111の回動方向に伸縮するように見せることが可能となる。

**【0045】**

しかも、進退部材121が第2進退位置に配置されると、突出部材130が進退部材121に対して第2進退位置側に突出するので、第1可動役物装置100の動作に一層の躍動感を持たせることができるとなる。さらに、図8(B)から図8(C)への変化に示されるように、進退部材121が第2進退位置へ近づくときに、装飾部材123が進退部材121と一緒に移動するので、進退部材121と一緒に装飾部材123の動作をダイナミックに見せることができるとなる。

**【0046】**

ところで、図8に示されるように、装飾部材123の装飾は、横方向で対をなすように形成されている。具体的には、中央側装飾構成体123Cのうち同図の一点鎖線より左側の部位は、一点鎖線より右側の部位を概ね左右逆にした形状になっていて、該右側の部位より若干大きくなっている。左側装飾構成体123Lは、右側装飾構成体123Rの形状を概ね左右逆にした形状になっていて、右側装飾構成体123Rより若干大きくなっている。また、進退部材121が第2進退位置に配置されたときに露出する回動ベース111の装飾プレート113の装飾も、横方向で対をなすように形成されている。装飾プレート113の装飾についても、同図の一点鎖線より左側の部位は、一点鎖線より右側の部位を概ね左右逆にした形状になっていて、該右側の部位より若干大きくなっている。

**【0047】**

このように、本実施形態の遊技機では、回動ベース111の装飾プレート113及び進退部材121の装飾部材123が横方向で対をなす形状に形成されていて、装飾プレート

10

20

30

40

50

113 及び装飾部材 123 のうち回動軸部 111J から遠い側の部位（具体的には、図 8 の一点鎖線より左側の部位）が、装飾プレート 113 及び装飾部材 123 のうち回動軸部 111J に近い側の部位（具体的には、図 8 の一点鎖線より右側の部位）より若干大きく形成されている。この構成によれば、回動ベース 111 及び進退部材 121 が回動軸部 111J を中心にして回動したときに、回動ベース 111 及び進退部材 121 のうち回動軸部 111J から遠い側の部位が近づいてくるように見せることが可能となり、回動ベース 111 と進退部材 121 に遠近感を持たせることが可能となる。

## 【0048】

## [第 2 可動役物装置 200]

図 10 に示されるように、第 2 可動役物装置 200 は、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 を有する。第 1 可動部 210 は、横並びに配置された複数の第 1 可動体 211 を備えている。

## 【0049】

図 10 (A) 図 10 (B) 図 10 (C) の変化に示されるように、第 1 可動部 210 は、上下方向に直動する横長の第 1 支持ベース 215 を有している。また、図 10 (B) から図 10 (C) への変化に示されるように、複数の第 1 可動体 211 は、第 1 支持ベース 215 に支持されて、第 1 支持ベース 215 の前側で前後方向に延びる軸を中心に回転可能となっている。

## 【0050】

本実施形態の遊技機 10 では、第 1 可動体 211 が 2 つ設けられていて、左側の第 1 可動体 211 は、第 1 支持ベース 215 の左側部に支持され、右側の第 1 可動体 211 は、第 1 支持ベース 215 の右側部に支持されている。具体的には、左側の第 1 可動体 211 は、横辺部と該横辺部の左端部から下側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部 211J を備える。右側の第 1 可動体 211 は、横辺部と該横辺部の右端部から下側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部 211J を備える。以下では、左側の第 1 可動体 211 と右側の第 1 可動体 211 を、第 1 左側可動体 211L と第 1 右側可動体 211R と称して、適宜、区別することにする。

## 【0051】

図 11 (A) に示されるように、第 1 可動体 211 は、後側構成体 212 の前面側に前側構成体 213 を重ねて固定してなる。後側構成体 212 は、第 1 支持ベース 215 に前側から重ねられる本体部 212H と、本体部 212H の下端部から後側に突出して第 1 支持ベース 215 を下側から覆う下端突壁 212K と、を備えている。また、前側構成体 213 は、後側構成体 212 の本体部 212H の前面に固定された本体部 213H と、後側構成体 212 の下端突壁 212K の下面に固定されて本体部 213H の下端部に連絡した下端カバー部 213K と、を備えている。前側構成体 213 の本体部 213H は、後側構成体 212 の本体部 212H よりも上側に飛び出している。なお、本体部 213H の前面には装飾が施されている。

## 【0052】

第 1 支持ベース 215 は、後側構成体 212 の本体部 212H に後側から重ねられて後側構成体 212 を回転自在に支持する本体部 215H と、本体部 215H の上端から前側に迫り出した上端突壁 215J と、を備えている。詳細には、本体部 215H は、後側構成体 212 の本体部 212H より上側に飛び出して前側構成体 213 の本体部 213H に後側から重ねられる。上端突壁 215J は、前側構成体 213 の本体部 213H に突き合わされて、後側構成壁 212 の本体部 212H に上側から対向している。

## 【0053】

図 13 (A) 及び図 13 (B) に示されるように、第 1 左側可動体 211L と第 1 右側可動体 211R は、回転自在に連結されている。そして、第 1 左側可動体 211L と第 1 右側可動体 211R とは、直線状に配置されて前側構成体 213 同士が繋がった直線状態（図 13 (A) 参照）と、下側が凸となる折れ線状に配置されて前側構成体 213 同士が分離した折曲状態（図 13 (B) 参照）と、に変化する。

10

20

30

40

50

## 【0054】

具体的には、本実施形態では、第1右側可動体211Rにおいて、後側構成体212が前側構成体213より横長に形成されていて、後側構成体212と前側構成体213が右端を揃えて配置されている。後側構成体212のうち前側構成体213からはみ出た左端部には、左上がりに延びる長孔214Nが形成されている。また、第1左側可動体211Lにおいては、前側構成体213が後側構成体212より横長に形成されていて、後側構成体212と前側構成体213が左端を揃えて配置されている。前側構成体213のうち後側構成体212からはみ出た右端部の後面には、長孔214Nと係合する係合突起214Tが突設されている。そして、長孔214Nと係合突起214Tの係合によって、第1左側可動体211Lと第1右側可動体211Rが回動自在に連結されている。なお、長孔214Nが第1左側可動体211Lに形成され、係合突起214Tが第1右側可動体211Rに形成されてもよい。

10

## 【0055】

第1支持ベース215は、図10(A)に示される第1上端位置と図10(C)に示される第1下端位置との間を直動可能に構成されている。図10(A)に示されるように、第1支持ベース215は、第1上端位置に配置された状態で、機構枠17の上辺部17Jに前側から重ねられる。このとき、第1左側可動体211Lと第1右側可動体211Rの各横辺部は、第1支持ベース215に沿って配置され、第1左側可動体211Lと第1右側可動体211Rの各縦辺部が機構枠17の側辺部17Sに重ねられる。

20

## 【0056】

図10(B)に示されるように、第1支持ベース215が第1上端位置から下方へ移動すると、第1支持ベース215が機構枠17の内側に配置される。このとき、図16(A)に示されるように、第1可動部210が表示画面13Gに前側から重なる。

## 【0057】

図12に示されるように、第1支持ベース215は、機構枠17の上辺部17Jに取り付けられた第1駆動機構230によって駆動される。第1駆動機構230は、駆動源231と、駆動源231により駆動される回動レバー234と、を備えている。本実施形態では、回動レバー234は、横方向に対をなして設けられている。1対の回動レバー234, 234は、回動軸部234Jを突き合わせるように配置されて、互いに逆方向に回動する。1対の回動レバー234, 234のうち一方の回動レバー234の中間部には、回動半径方向に延びた中間長孔233が形成されている。この中間長孔233には、駆動源231により駆動される中継ギア232に突設された回転突部232Tが係合している。また、1対の回動レバー234, 234のそれぞれの先端部は、第1支持ベース215の左右両端寄り部分に後側から重ねられる。具体的には、第1支持ベース215には、上端突壁215Jの両側部から上側に突出する1対の突片215T, 215Tが設けられ、これら1対の突片215T, 215Tに1対の回動レバー234, 234の先端部が重ねられる。突片215Tには、横方向に延びる長孔235が形成されていて、この長孔235に、回動レバー234の先端部に突設された先端突部236が係合している。中継ギア232が駆動されると、1対の回動レバー234, 234が回動し、第1支持ベース215が機構枠17に対して上下方向に直動する。

30

## 【0058】

ここで、図12及び図13に示されるように、機構枠17の側辺部17Sの前面側には、該側辺部17Sとの間に、第1支持ベース215及び第1可動体211(即ち、第1可動部210)の側部を挟む挟み部237が取り付けられている。これにより、第1支持ベース215の前後方向の移動が規制されている。また、図12に示されるように、機構枠17の右側の側辺部17Sには、上下方向に延びるガイドシャフト238が固定され、第1支持ベース215の右端部には、ガイドシャフト238が挿通される図示しないシャフト挿通孔が設けられている。これにより、第1支持ベース215の直動の安定化が図られている。

40

## 【0059】

50

図10(A)～図10(C)に示されるように、第1可動部210では、第1支持ベース215の移動に伴って、第1左側可動体211L及び第1右側可動体211Rが直線状態(図10(B)に示す状態)と折曲状態(図10(C)に示す状態)とに変化する。以下、第1可動部210の動作機構について説明する。

#### 【0060】

図12に示されるように、機構枠17の左側の側辺部17Sに取り付けられた挟み部237には、挟み部237を前後に貫通するガイド孔251が形成されている。ガイド孔251は、上下方向に直線状に延びる鉛直部251Aと、鉛直部251の下端から右下方へ直線状に延びる誘導傾斜部251Bと、からなる。図13に示されるように、ガイド孔251には、第1左側可動体211Lに設けられたガイド突部252が係合している。詳細には、第1左側可動体211Lは、その回動軸部211Jから左上側に張り出して先端部がガイド孔251に重ねられる左側張出片253を有し、ガイド突部252は、左側張出片253の先端部から前側に突出している。

10

#### 【0061】

また、図12に示されるように、機構枠17の右側の側辺部17Sに取り付けられた挟み部237の前面には、左側を段付き状に陥没させる陥没部256が形成されている。陥没部256の内面のうち左側を向く部分は、前側から見て上下方向に直線状に延びる鉛直面256Aと、鉛直面256Aの下端から左下方へ直線状に延びる誘導傾斜面256Bと、からなる。図13に示されるように、陥没部256には、第1右側可動体211Rに設けられた摺動軸部257が受容されている。詳細には、第1右側可動体211Rは、その回動軸部211Jから右上側に張り出して先端部が陥没部256内に突入した右側張出片258を有し、摺動軸部257は、右側張出片258の先端部に突設されている。

20

#### 【0062】

図10(A)から図10(B)への変化に示されるように、第1支持ベース215が第1上端位置から第1下端位置側へ移動すると、第1左側可動体211Lのガイド突部252がガイド孔251の鉛直部251Aに沿って移動し、第1右側可動体211Rの摺動軸部257が陥没部256の鉛直面256Aに沿って移動する。このとき、第1左側可動体211L及び第1右側可動体211Rは直線状態に保持されている。

#### 【0063】

図10(B)から図10(C)への変化に示されるように、第1支持ベース215が第1下端位置に近づくと、図13(A)及び図13(B)に拡大して示されるように、第1左側可動体211Lのガイド突部252がガイド孔251の誘導傾斜部251B内を移動する。すると、ガイド突部252が誘導傾斜部251Bの内面に押されて、第1左側可動体211Lがその回動軸部211Jを中心に時計方向に回動する。また、このとき、第1右側可動体211Rの摺動軸部257が陥没部256の誘導傾斜面256Bに摺動する。すると、摺動軸部257が誘導傾斜面256Bに押されて、第1右側可動体211Rがその回動軸部211Jを中心に反時計方向に回動する。その結果、第1左側可動体211L及び第1右側可動体211Rが、直線状態から折曲状態に変化する。

30

#### 【0064】

このように、第1可動部210は、第1支持ベース215の上下方向の移動によって、全体が上下に移動する。そして、第1支持ベース215が第1上端位置に配置されると、第1可動部210は、複数の第1可動体211の前側構成体213が左右方向に沿って直線状に並べられた連結状態となり(図10(A)参照)、第1支持ベース215が第1下端位置に配置されると、第1可動部210は、複数の第1可動体211の前側構成体213がバラバラに分断された分断状態となる。

40

#### 【0065】

図13(B)から図13(A)への変化に示されるように、第1支持ベース215が第1下端位置から第1上端位置側へ移動すると、第1左側可動体211Lのガイド突部252が誘導傾斜部251Bの内面に押されて、第1左側可動体211Lがその回動軸部211Jを中心に反時計方向に回動する。ここで、第1左側可動体211Lと第1右側可動体

50

211Rの横辺部同士は回転自在に連結されているので、第1左側可動体211Lが反時計方向に回動すると、第1右側可動体211Rが時計方向に回動する。その結果、第1左側可動体211L及び第1右側可動体211Rが、折曲状態から直線状態に変化する。なお、第1支持ベース215の左端部には、第1左側可動体211Lを反時計方向に付勢する付勢バネ254が備えられ、第1支持ベース215の右端部には、第1右側可動体211Rを時計方向に付勢する付勢バネ259が備えられている。

#### 【0066】

図10に示されるように、第2可動部220は、第1可動部210に下方から対向し、横並びに配置された複数の第2可動体221を備えている。

#### 【0067】

図10(A) 図10(B) 図10(C)の変化に示されるように、第2可動部220は、上下方向に直動する横長の第2支持ベース225を有している。また、図10(B)から図10(C)への変化に示されるように、複数の第2可動体221は、第2支持ベース225に支持されて、第2支持ベース225の前側で前後方向に延びる軸を中心に回転可能となっている。

#### 【0068】

本実施形態の遊技機10では、第2可動体221が3つ設けられていて、左側の第2可動体221は、第2支持ベース225の左側部に支持され、中央側の第2可動体221は、第2支持ベース225の左右中央部に支持され、右側の第2可動体221は、第2支持ベース225の右側部に支持されている。具体的には、左側の第2可動体221は、横辺部と該横辺部の左端部から上側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部221Jを備える。中央側の第2可動体221は、横辺部のみを有し、該横辺部の右側部に回動軸部221Jを備える。右側の第2可動体221は、横辺部と該横辺部の右端部から上側へ延びる縦辺部とを有し、横辺部と縦辺部の交差部分に回動軸部221Jを備える。以下では、左側の第2可動体221と中央側の第2可動体221と右側の第2可動体221を、第2左側可動体221Lと第2中央可動体221Cと第2右側可動体221Rと称して、適宜、区別することにする。

#### 【0069】

図11(B)に示されるように、第2可動体221は、後側構成体222の前面側に前側構成体223を重ねて固定してなる。後側構成体222は、第2支持ベース225に前側から重ねられる本体部222Hと、本体部222Hの上端部から後側に突出して第2支持ベース225を上側から覆う上端突壁222Jと、を備えている。また、前側構成体223は、後側構成体222の本体部222Hの前面に固定された本体部223Hと、後側構成体222の上端突壁222Jの上面に固定されて本体部223Hの上端部に連絡した上端カバー部223Jと、を備えている。前側構成体223の本体部223Hは、後側構成体222の本体部222Hよりも下側に飛び出している。なお、本体部223Hの前面には装飾が施されている。

#### 【0070】

第2支持ベース225は、後側構成体222の本体部222Hに後側から重ねられて後側構成体222を回転自在に支持する本体部225Hと、本体部225Hの下端から前側に迫り出した下端突壁225Kと、を備えている。詳細には、本体部225Hは、後側構成体222の本体部222Hより下側に飛び出して前側構成体223の本体部223Hに後側から重ねられる。下端突壁225Kは、前側構成体223の本体部223Hに突き合わされて、後側構成壁222の本体部222Hに下側から対向している。

#### 【0071】

図15(A)及び図15(B)に示されるように、第2左側可動体221Lと第2中央可動体221Cは、回転自在に連結されている。そして、第2左側可動体221Lと第2中央可動体221Cとは、直線状に配置されて前側構成体223同士が繋がった直線状態(図15(A)参照)と、上側が凸となる折れ線状に配置されて前側構成体223同士が分離した折曲状態(図15(B)参照)と、に変化する。

10

20

30

40

50

## 【0072】

具体的には、本実施形態では、第2左側可動体221Lにおいて、後側構成体222が前側構成体223より横長に形成されていて、後側構成体222と前側構成体223が左端を揃えて配置されている。後側構成体222のうち前側構成体223からはみ出た右端部には、右下がりに延びる長孔224Nが形成されている。また、第2中央可動体221Cにおいて、前側構成体223が後側構成体222より横長に形成されていて、後側構成体222と前側構成体223が右端を揃えて配置されている。前側構成体223のうち後側構成体222からはみ出た左端部の後面には、長孔224Nと係合する係合突起224Tが突設されている。そして、長孔224Nと係合突起224Tの係合によって、第2左側可動体221Lと第2中央可動体221Cが回動自在に連結されている。なお、長孔224Nが第2中央可動体221Cに形成され、係合突起224Tが第2左側可動体221Lに形成されてもよい。

10

## 【0073】

第2支持ベース225は、図10(A)に示される第2下端位置と図10(C)に示される第2上端位置との間を直動可能に構成されている。図10(A)に示されるように、第2支持ベース225は、第2下端位置に配置された状態で、機構枠17の下辺部17Kに前側から重ねられる。このとき、第2左側可動体221L、第2中央可動体221C及び第2右側可動体221Rの各横辺部は、第2支持ベース225に沿って配置され、第2左側可動体221Lと第2右側可動体221Rの各縦辺部が機構枠17の側辺部17Sに重ねられる。なお、第2支持ベース225及び第2可動部220(即ち、第2可動部220)の側部は、機構枠17の側辺部17Sと上述した挟み部237との間に挟まれていて、これにより、第2支持ベース225の前後方向の移動が規制されている。

20

## 【0074】

図10(B)に示されるように、第2支持ベース225が第2下端位置から上方へ移動すると、第2支持ベース225が機構枠17の内側に配置される。このとき、図16(A)に示されるように、第2可動部220が表示画面13Gに前側から重なる。

## 【0075】

図14に示されるように、第2支持ベース225は、機構枠17の各側辺部17Sに取り付けられた第2駆動機構240によって駆動される。第2駆動機構240は、駆動源241と、駆動源241によって駆動されるピニオン242と、を備える。駆動源241は、上述した挟み部273の前面に固定され、駆動源241の回転出力軸は、挟み部273を前後に貫通する。ピニオン242は、側辺部17Sと挟み部273との間で、駆動源241の回転出力軸に取り付けられている。ピニオン242には、第2支持ベース225の各側部に設けられたラック244が噛合する。具体的には、第2支持ベース225の両側部には、上方へ直線状に延びる1対のサイド突壁243、243が設けられていて、それら1対のサイド突壁243、243の互いの対向面にラック244、244が形成されている。また、機構枠17の側辺部17Sには、上下方向に延びる長孔245Nが形成されていて、その長孔245Nにサイド突壁243から後側に突出する突部245Tが係合することで、第2支持ベース225の移動の安定化が図られている。

30

## 【0076】

図10(A)～図10(C)に示されるように、第2可動部220では、第2支持ベース225の移動に伴って、第2左側可動体221L及び第2中央可動体221Cが直線状態(図10(B)に示す状態)と折曲状態(図10(C)に示す状態)とに変化し、第2右側可動体221Rが回動する。以下、第2可動部220の動作機構について説明する。

40

## 【0077】

図15に示されるように、機構枠17の1対の側辺部17S、17Sに取り付けられた1対の挟み部237、237の互いの対向面には、1対のガイド面261、261が形成されている。各ガイド面261は、前側から見て上下方向に直線状に延びる鉛直面261Aと、鉛直面261Aの上端から左右中央側へ直線状に延びる誘導傾斜面261Bと、からなる。左側のガイド面261の誘導傾斜面261Bには、第2左側可動体221Lに設

50

けられた摺動突部 262 が下方から対向する。右側のガイド面 261 の誘導傾斜面 261B には、第2右側可動体 221R に設けられた摺動突部 262 が下方から対向する。なお、第2左側可動体 221L においては、回動軸部 221J から左下に張り出した張出片 263 に摺動突部 262 が突設されている。また、第2右側可動体 221R においては、回動軸部 221J から右下に張り出した張出片 263 に摺動突部 262 が突設されている。

#### 【0078】

図10(A)から図10(B)への変化に示されるように、第2支持ベース 225 が第2下端位置から第2上端位置側へ移動すると、第2左側可動体 221L の摺動突部 262 が左側の挟み部 273 におけるガイド面 261 の鉛直面 261A に沿って移動し、第2右側可動体 221R の摺動軸部 262 が右側の挟み部 273 におけるガイド面 261 の鉛直面 261A に沿って移動する。このとき、第2左側可動体 221L 及び第2中央可動体 221C は直線状態に保持され、第2右側可動体 221R の横辺部は第2支持ベース 225 に沿って水平に配置されている。10

#### 【0079】

図10(B)から図10(C)への変化に示されるように、第2支持ベース 225 が第2上端位置に近づくと、図15(A)及び図15(B)に拡大して示されるように、第2左側可動体 221L の摺動突部 262 が左側の挟み部 273 におけるガイド面 261 の誘導傾斜面 261B に摺動する。すると、該摺動軸部 262 が誘導傾斜面 261B に押されて、第2左側可動体 221L がその回動軸部 221J を中心に反時計方向に回動する。第2左側可動体 221L が回動すると、第2中央可動体 221C の左側部が持ち上げられ、第2左側可動体 221L 及び第2中央可動体 221C が、直線状態から折曲状態に変化する。20

#### 【0080】

また、第2支持ベース 225 が第2上端位置に近づくと、第2右側可動体 221R の摺動軸部 262 が右側の挟み部 273 におけるガイド面 261 の誘導傾斜面 261B に摺動する。すると、該摺動軸部 262 が誘導傾斜面 261B に押されて、第2右側可動体 221R がその回動軸部 221J を中心に時計方向に回動する。なお、第2支持ベース 225 (詳細には、本体部 225H) には、第2右側可動体 221R の回動軸部 221J を中心とした円弧状をなす支持孔 264A が形成されている。そして、この支持孔 264A に、第2右側可動体 221R の横辺部に設けられた支持突部 264T が係合することで、第2右側可動体 221R の回動の安定化が図られている。30

#### 【0081】

このように、第2可動部 220 は、第2支持ベース 225 の上下方向の移動によって、全体が上下に移動する。そして、第2支持ベース 225 が第2下端位置に配置されると、第2可動部 220 は、複数の第2可動体 221 の前側構成体 223 が左右方向に沿って直線状に並べられた連結状態となり(図10(A)参照)、第2支持ベース 225 が第2上端位置に配置されると、第2可動部 220 は、複数の第2可動体 221 の前側構成体 223 がバラバラに分断された分断状態となる。

#### 【0082】

ところで、第2左側可動体 221L は、自重によって時計方向に付勢され、第2右側可動体 221R は、自重によって反時計方向に付勢されている。従って、第2左側可動体 221L と第2右側可動体 221R の摺動軸部 262 がガイド面 261 の誘導傾斜面 261B と当接した状態では、第2左側可動体 221L と第2右側可動体 221R は、付勢力に抗した力を誘導傾斜面 261B から受けていることになる。従って、図15(B)から図15(A)への変化に示されるように、第2支持ベース 225 が第2上端位置から第2下端位置側へ移動すると、第2左側可動体 221L と第2右側可動体 221R の摺動軸部 262 が誘導傾斜面 261B から離れるように移動することとなり、第2左側可動体 221L が自重によって時計方向に回動し、第2右側可動体 221R が自重によって反時計方向に回動する。ここで、第2左側可動体 221L と第2中央可動体 221C の横辺部同士は回転自在に連結されているので、第2左側可動体 221L が時計方向に回動すると、第2

中央可動体 221C が反時計方向に回動する。その結果、第 2 左側可動体 221L 及び第 2 中央可動体 221C が、折曲状態から直線状態に変化する。

#### 【0083】

本実施形態の遊技機 10 では、図 16(A)～図 16(C) の流れに示されるように、第 2 可動役物装置 200 の動作に上述した第 1 可動役物装置 100 の動作が複合した複合役物演出が行われてもよい。具体的には、複合役物演出では、まず、図 16(A) に示されるように、第 2 可動役物装置 200 において、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が互いに接近する。この接近は、図 10(A) から図 10(B) への流れで示した第 1 支持ベース 215 と第 2 支持ベース 225 の移動により行われる。

#### 【0084】

第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が接近すると、第 1 可動部 210 及び第 2 可動部 220 が表示画面 13G の前側に配置される。その結果、表示画面 13G のうち第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域が上下に狭まる。このとき、表示画面 13G において第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域に表示される画像が、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の接近に伴って上下に圧縮される。また、表示画面 13G において第 1 可動部 210 の上側から視認可能な領域と第 2 可動部 220 の下側から視認可能な領域が暗くなる。

#### 【0085】

図 16(A) から図 16(B) の流れに示されるように、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 がさらに接近すると、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 が連結状態から分断状態に変化する。このとき、表示画面 13G において第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の間から視認可能な領域には、その全体に亀裂が入った画像が表示される。このように、本実施形態では、第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の動作と表示画面 13G の画像が連動することで、表示画面 13G が割れるように見せることが可能となる。

#### 【0086】

図 16(B) から図 16(C) の流れに示されるように、複合役物演出では、さらに、第 1 可動役物装置 100 において、回動ベース 111 が第 1 回動位置から第 2 回動位置へと回動すると共に、進退部材 121 が第 1 進退位置から第 2 進退位置へと移動する。すると、第 1 可動役物装置 100 の移動演出部 110 が第 2 可動役物装置 200 の第 1 可動部 210 と第 2 可動部 220 の前側に配置される。ここで、回動ベース 111 の装飾プレート 113 と進退部材 121 の装飾部材 123 には、例えば、獣や化け物の顔の装飾が施されている、進退部材 121 から突出する突出部材 130 は、牙を象った形状となっている。これにより、第 1 可動役物装置 100 の移動演出部 110 が模した獣や化け物が表示画面 13G を噛み砕いているように見せることが可能となる。

#### 【0087】

以下、本実施形態の遊技機 10 から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお、以下では、理解の容易のため、上記実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

#### 【0088】

##### <特徴 A 群>

以下の特徴 A 群は、「可動役物装置を備えた」遊技機に関し、「特許文献 A（特開 2008-104637 号（段落 [0131]～[0132]、図 11、図 15））の遊技機では、可動役物装置が、前後方向に沿った回動軸を中心として回動可能な回動部材を備えている。」という背景技術について、「特許文献 A の遊技機では、可動役物装置の動作が単純で興味に欠ける。」という課題をもってなされたものである。

#### 【0089】

##### [特徴 A 1]

可動役物装置（第 1 可動役物装置 100）を備えた遊技機（遊技機 10）において、前記可動役物装置は、

10

20

30

40

50

前後方向に沿った回動軸（回動軸部 111J）を中心として回動可能に支持されて第1回動位置（図4（A）に示される回動ベース111の位置）と第2回動位置（図4（B）に示される回動ベース111の位置）の間を移動可能な回動部材（回動ベース111）と、

前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第1回動位置側の第1進退位置（図6（A）に示される進退部材121の位置）と前記第2回動位置側の第2進退位置（図6（B）に示される進退部材121の位置）との間を移動可能な進退部材（進退部材121）と、を有する、遊技機。

#### 【0090】

本特徴に示す構成では、回動部材が第1回動位置から第2回動位置へ回動するときに、その回動部材に搭載された進退部材がさらに回動部材の回動方向に移動可能となる。本特徴の構成によれば、回動部材と進退部材の動きの組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。10

#### 【0091】

##### [特徴A2]

前記可動役物装置は、

前記進退部材に搭載されて前記進退部材の進退方向に沿って移動可能に支持されると共に、前記進退部材に重ねられる退避位置（図6（A）に示される突出部材130の位置）と前記進退部材から前記第2進退位置側に突出する突出位置（図6（B）に示される突出部材130の位置）との間を移動可能な突出部材（突出部材130）をさらに有し、20

前記突出部材は、前記進退部材の前記第1進退位置から前記第2進退位置への移動に伴って前記退避位置から前記突出位置に移動する、特徴A1に記載の遊技機。

#### 【0092】

本特徴に示す構成では、進退部材が第2進退位置に配置されたときに、進退部材に搭載された突出部材が進退部材から第2進退位置側に突出するので、可動役物装置の動作に一層の躍動感を持たせることが可能となり、可動役物装置の動作の趣向性を更なる向上が図られる。

#### 【0093】

##### [特徴A3]

前記突出部材は、前記退避位置に配置されたときに前記進退部材に前側を覆われる、特徴A2に記載の遊技機。30

#### 【0094】

本特徴に示す構成では、突出部材は、進退部材から突出したときに遊技者に視認可能となるので、遊技者に意外性を付与可能となる。

#### 【0095】

##### [特徴A4]

前記突出部材は、前記進退部材に回転自在に支持され、その回転中心（回動軸部130LJ, 130RJ）から離れた部位（係合突部135, 135）が前記進退部材の移動に伴って前記回動部材に摺接することで回転するように構成された、特徴A2又はA3に記載の遊技機。40

#### 【0096】

本特徴に示す構成によれば、突出部材用の駆動源を進退部材に設けることなく進退部材の移動に伴って突出部材を移動させることができとなる。

#### 【0097】

##### [特徴A5]

前記突出位置は、前記進退部材がその移動ストロークの途中位置より前記第2進退位置側を移動するときに、前記進退部材と一体になって前記回動部材の回動方向に移動する、特徴A4に記載の遊技機。

#### 【0098】

本特徴に示す構成では、進退部材が第2進退位置へ近づくときに、進退部材と突出部材

が回動部材から一体的に突出するので、進退部材と突出部材の動作をダイナミックに見せることが可能となる。

【0099】

[特徴A6]

前記回動部材の前記回動軸は、前記回動部材において、前記第2回動位置側であって前記回動部材の回動方向と直交する方向の片側に寄せて配置されている、特徴A1乃至5のうち何れか1に記載の遊技機。

【0100】

本特徴に示す構成によれば、第2回動位置へと向かう回動部材を傾くように見せることが可能となる。

10

【0101】

[特徴A7]

前記回動部材及び前記進退部材には、前記回動部材の回動方向と直交する方向で対をなす1対の装飾部（装飾プレート113及び装飾部材123における図8に示される一点鎖線より左側の部位と、同図の一点鎖線より右側の部位）が設けられ、

前記1対の装飾部のうち前記回動部材の前記回動軸から遠い側の装飾部（図8に示される一点鎖線より左側の部位）は、該回動軸から近い側の装飾部（図8に示される一点鎖線より右側の部位）より大きく形成されている、特徴A6に記載の遊技機。

【0102】

本特徴に示す構成では、回動部材と進退部材に設けられた1対の装飾部が回動部材の回動軸から遠い方が大きく形成されているので、回動部材と進退部材に遠近感を持たせることができ可能となる。

20

【0103】

[特徴A8]

可動役物装置（第1可動役物装置100）を備えた遊技機（遊技機10）において、前記可動役物装置は、

第1装飾部（装飾プレート113）を備えると共に、前後方向に沿った回動軸（回動軸部111J）を中心として回動可能に支持されて第1回動位置（図4（A）に示される回動ベース111の位置）と第2回動位置（図4（B）に示される回動ベース111の位置）の間を移動可能な回動部材（回動ベース111）と、

30

第2装飾部（装飾部材123）を備えると共に、前記回動部材に搭載されて前記回動部材の回動方向に進退可能であって前記第1回動位置側の第1進退位置（図6（A）に示される進退部材121の位置）と前記第2回動位置側の第2進退位置（図6（B）に示される進退部材121の位置）との間を移動可能な進退部材（進退部材121）と、を有し、

前記回動部材に備えた前記第1装飾部は、前記進退部材が前記第1進退位置に配置されたときに前記進退部材の前記第2装飾部に前側を覆われ、前記進退部材が前記第2進退位置に配置されたときに前記進退部材の外側に露出する、遊技機。

【0104】

本特徴に示す構成では、回動部材が第1回動位置から第2回動位置へ回動するときに、その回動部材に搭載された進退部材がさらに回動部材の回動方向に移動可能となる。本特徴の構成によれば、回動部材と進退部材の動きの組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることができとなり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。しかも、本特徴の構成では、進退部材が第2進退位置へ移動すると、回動部材に備えた第1装飾部が露出するので、遊技者に意外性を与えることができると共に、可動役物装置の動作を遊技者に認識させ易くなる。

40

【0105】

[特徴A9]

前記第2装飾部は、前記第2進退位置側を中心（回転軸部123LJ, 123RJ）として扇状に並べられた複数の装飾部構成体（左側装飾構成体123L、中央側装飾構成体123C及び右側装飾構成体123R）からなり、

50

前記複数の装飾部構成体は、前記進退部材が前記第1進退位置から前記第2進退位置へ向かうにつれて前記第1進退位置側が互いに近づくように寄せられる、特徴A8に記載の遊技機。

#### 【0106】

本特徴に示す構成では、進退部材が第2進退位置へ向かうにつれて第2装飾部が窄まるように見せることで、進退部材の動作自体にも躍動感を持たせることが可能となる。

#### 【0107】

##### [特徴A10]

可動役物装置（第1可動役物装置100）を備えた遊技機（遊技機10）において、  
前記可動役物装置は、

前後方向に沿った回動軸（回動軸部111J）を中心として回動可能に支持され、その回動に伴って回動方向に伸縮可能な移動演出部（移動演出部110）を有する、遊技機。

#### 【0108】

本特徴に示す構成では、回動と伸縮の組合せにより、可動役物装置の動作に躍動感を持たせることができとなり、可動役物装置の動作の趣向性向上が図られる。

#### 【0109】

なお、特徴A8又はA9に示す構成に、特徴A3～A7に示す構成が組み合わされてもよい。また、特徴A10に示す構成に、特徴A1～A9に示す構成が組み合わされてもよい。

#### 【0110】

##### [特徴A群に含まれる他の実施形態]

特徴A群には、上記実施形態の他に、例えば、以下に示される実施形態も含まれる。

#### 【0111】

(a1) 進退部材121は、回動ベース111が第2回動位置へ向かうときに、第1回動位置側へ移動してもよい。

#### 【0112】

(a2) 特徴A1，A8～A10に含まれる形態では、突出部材130を備えない構成であってもよい。

#### 【0113】

(a3) 突出部材130は、進退部材121に直動自在に支持されて、進退部材121に対して直動して突出位置に配置される構成であってもよい。具体的には、図17(A)及び17(B)に示されるように、突出部材130を進退部材121に直動可能に支持すると共に、上記実施形態における直動駆動機構115の回動レバー117に替えて、回動レバー111を先端側に長くした回動レバー117Vを備えた構成とすればよい。回動レバー117Vは、長手方向の中間部に第1長孔118Aを備え、先端部に第2長孔118Bを備えている。そして、第1長孔118Aにスライド部材122のガイド突部122Gが係合し、第2長孔118Bに突出部材130のガイド突部130Gが係合している。また、回動ベース111の後壁112Bには、スライド部材122のガイド突部122Gをガイドする第1ガイド孔112GAが形成されると共に、突出部材130のガイド突部130Gをガイドする第2ガイド孔112GBが形成されている。このような構成とすることで、図17(A)から図17(B)の変化に示されるように、回動レバー117Vの回転によって、進退部材121を突出位置に直動させると共に、突出部材130を進退部材121に対して直動させ、突出位置に配置することができる。なお、図17では、突出部材130が1つだけの構成となっている。

#### 【0114】

(a4) 突出部材130は、退避位置に配置された状態で、遊技者に視認可能であってもよい。具体的には、突出部材130を、進退部材121の装飾部123より前側に配置すればよい。

#### 【0115】

(a5) 進退部材121が第2進退位置に配置されたときに、装飾部材123と突出部

10

20

30

40

50

材 130 の両方が視認困難な構成であってもよい。具体的には、装飾部材 123 及び突出部材 130 を、回動ベース 111 の後壁 112B より前側、且つ、装飾プレート 113 より後側に配置すればよい。

#### 【0116】

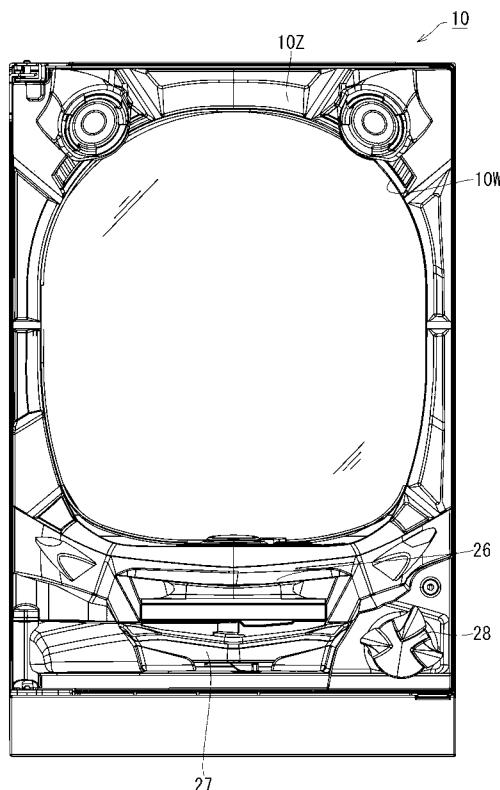
(a6) 上記実施形態において、遊技盤 11 の前面に沿って移動する移動ベースに回動ベース 111 が回動可能に支持された構成であってもよい。

#### 【符号の説明】

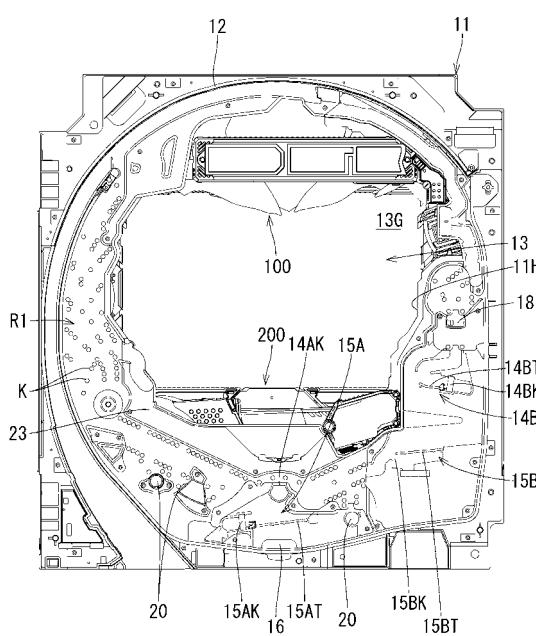
#### 【0117】

10	遊技機	10
100	第1可動役物装置	
101	固定ベース	
110	移動演出部	
111	回動ベース	
111J	回転軸部	
121	進退部材	
130	突出部材	
200	第2可動役物装置	20
210	第1可動部	
211	第1可動体	
220	第2可動部	
221	第2可動体	

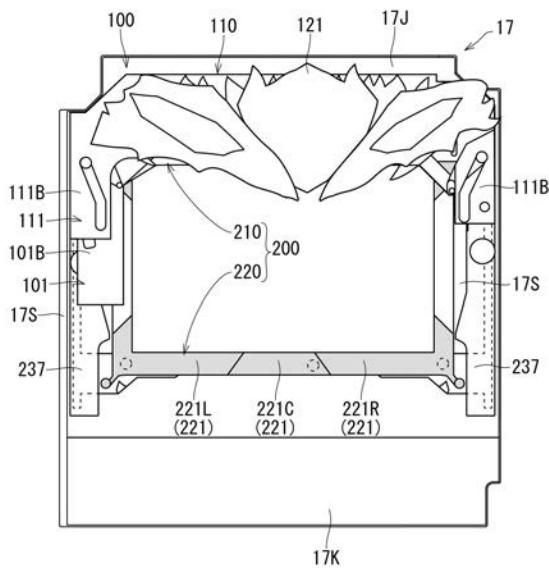
【図1】



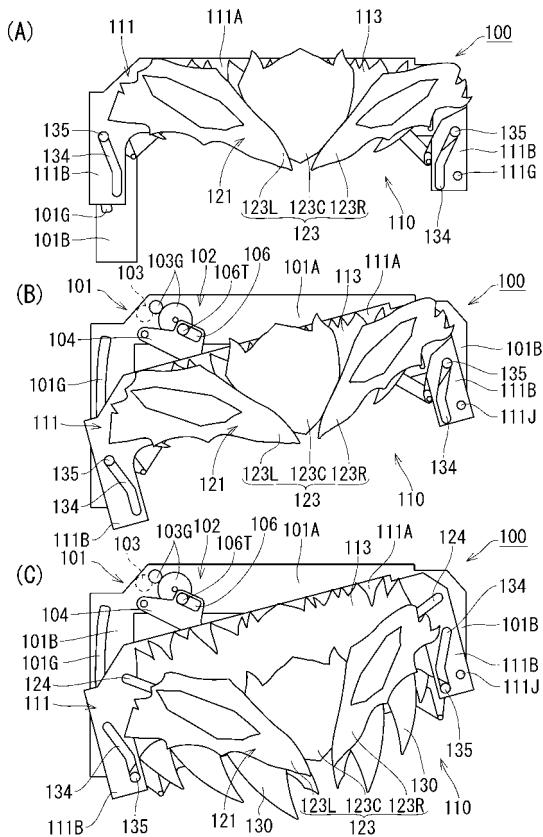
【図2】



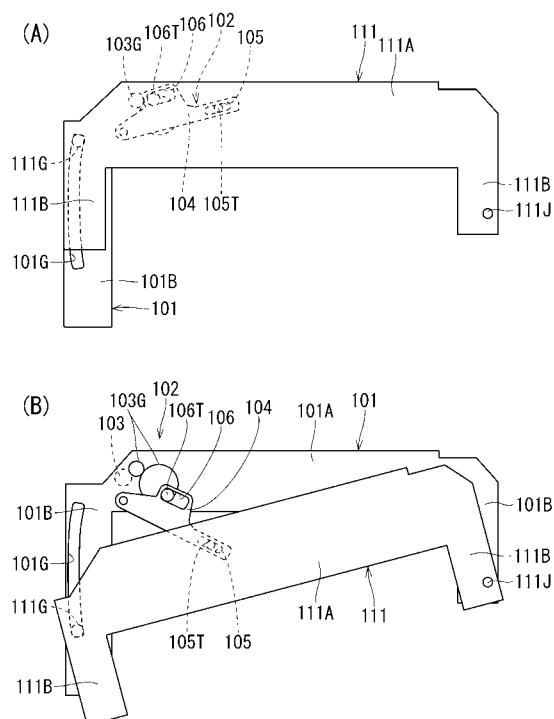
【図3】



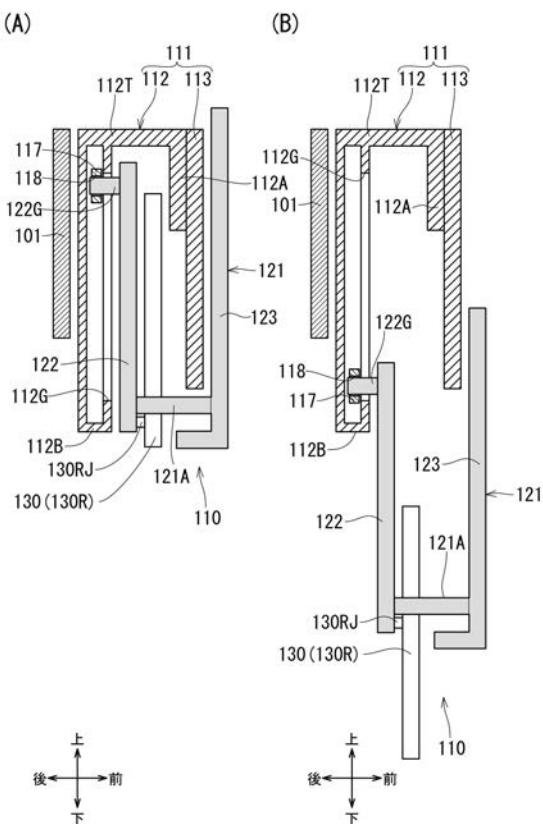
【図4】



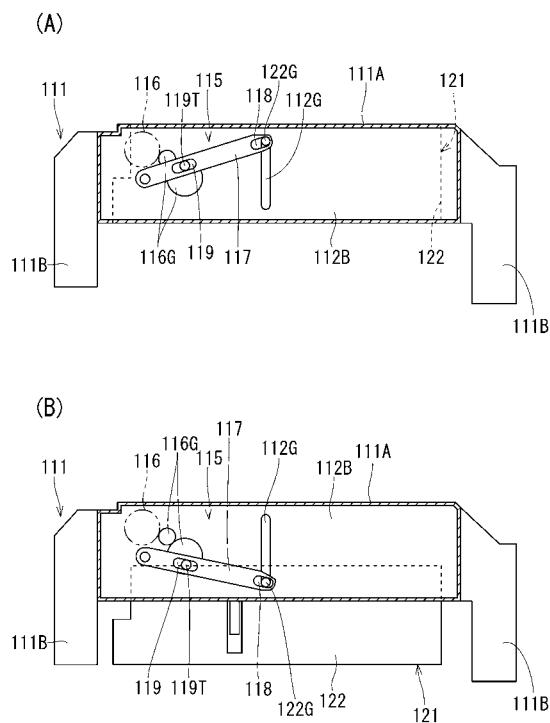
【図5】



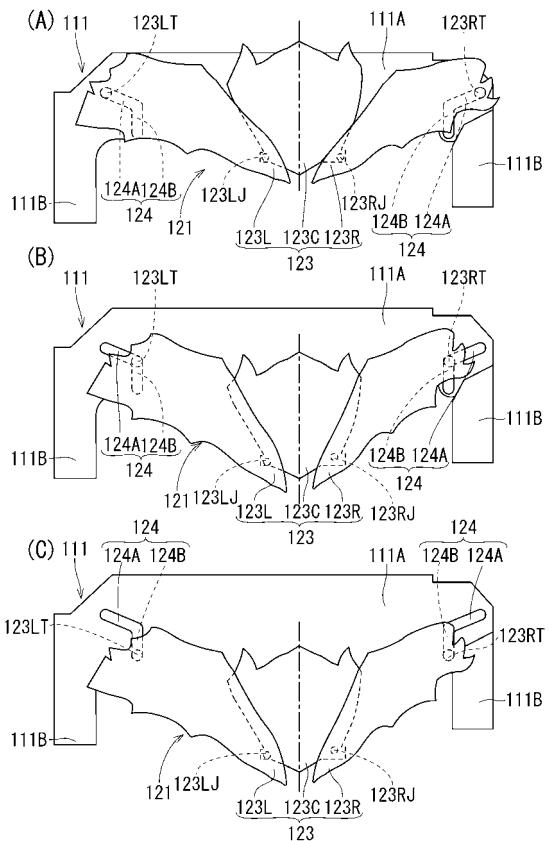
【図6】



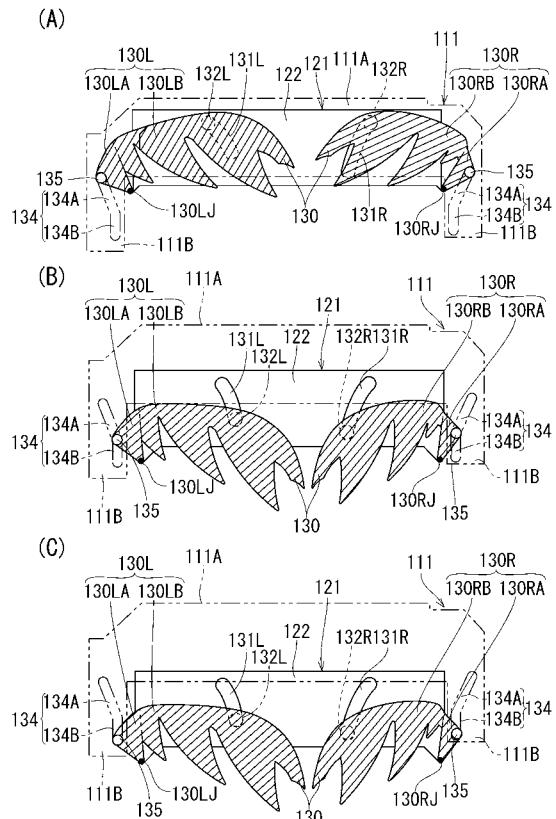
【図7】



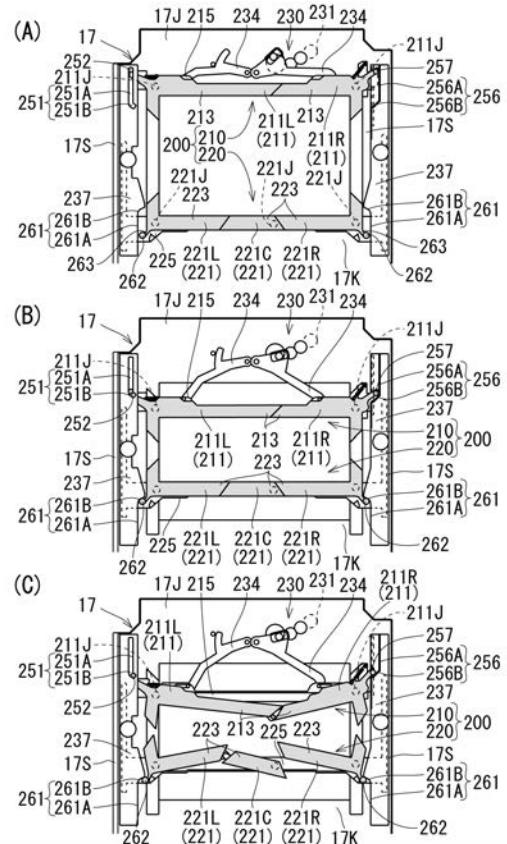
【図8】



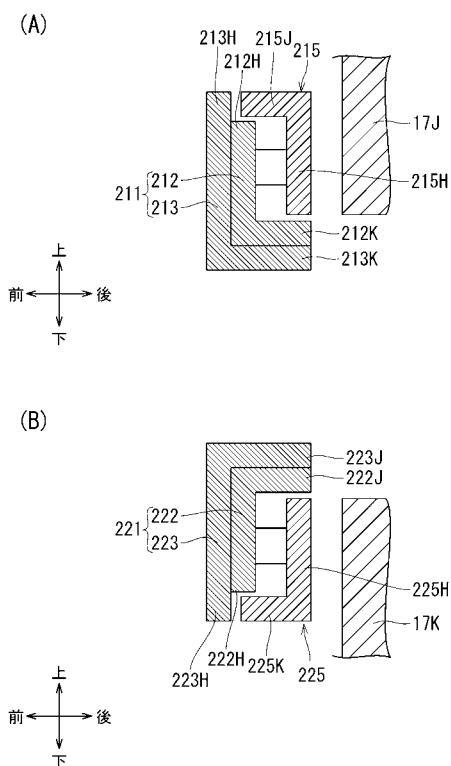
【図9】



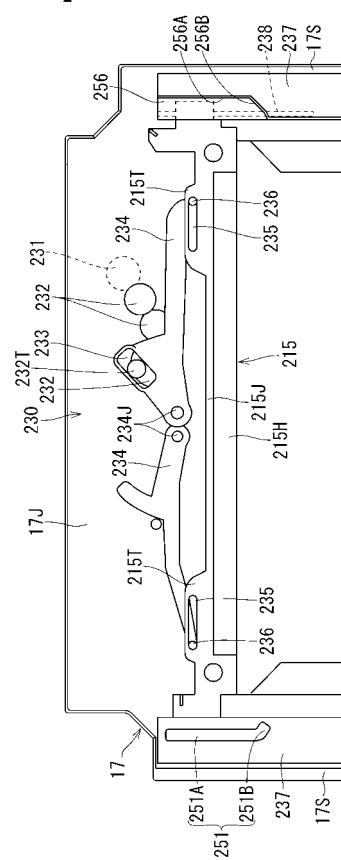
【図10】



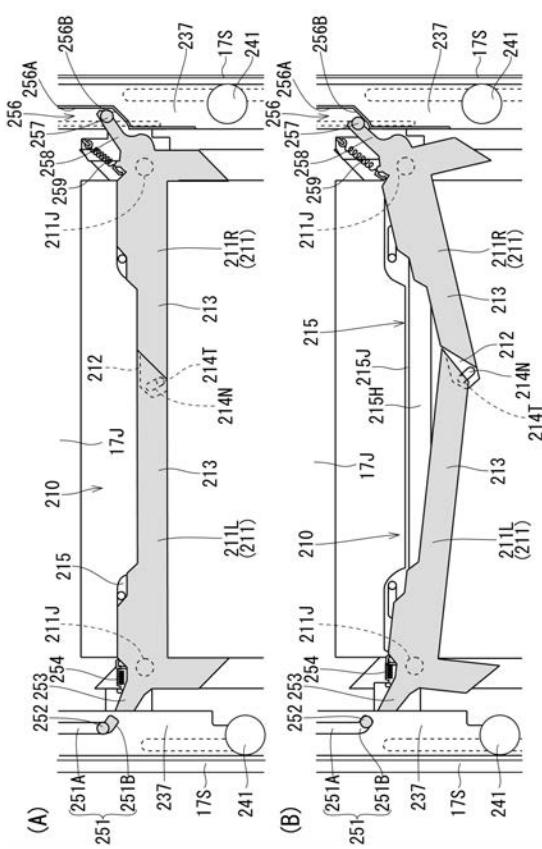
【 図 1 1 】



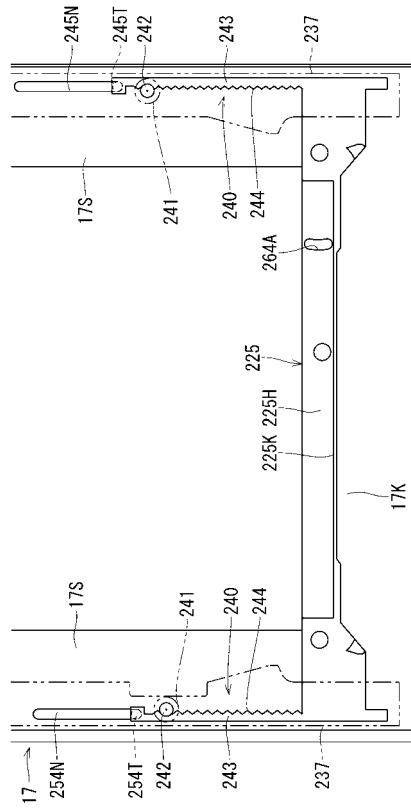
【図12】



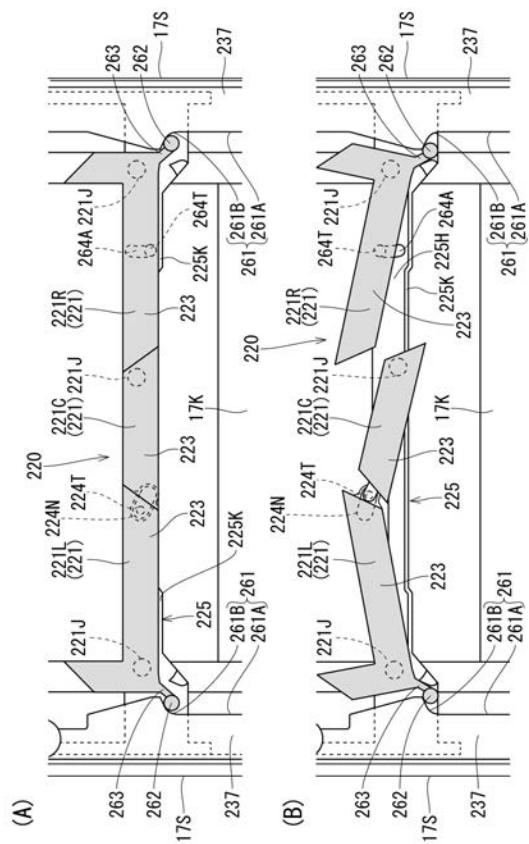
【 図 1 3 】



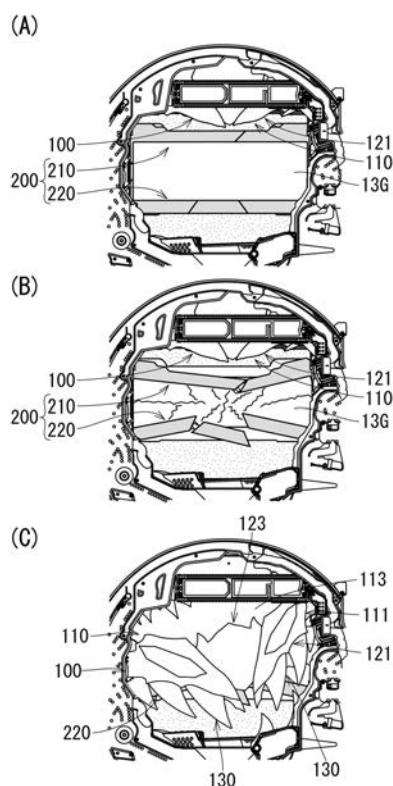
【 図 1 4 】



【図15】



【図16】



【図17】

